

満天レター vol.7 七大学戦展望号

目次

1. はじめに . . . 1	ロングパート . . . 3
2. 主将挨拶 . . . 1	競歩パート . . . 3
3. 女子主将挨拶 . 1	跳躍パート . . . 3
4. 展望	投擲パート . . . 4
短短パート . . . 2	女子の部 展望 . . 5
短長パート . . . 2	5. 終わりに . . . 6
ミドルパート . . 3	

1. はじめに

いよいよ七大学戦が近づいてまいりました。8月9日にオープンの部が、10日に対校の部が、西京極競技場（阪急京都線・西京極駅最寄）にて行われます。七大学戦で十二分に力を発揮できるように、1日1日を大切に努力しております。

2. 主将挨拶

昨年同様、京大がずば抜けて強いと言われていますが、その中で、唯一対抗できる存在が阪大です。

今年度の記録を見ている限り、昨年ほどは京大との差はなく、むしろ拮抗しています。それは七大学戦が京大の得意な長距離種目が少なく、阪大が強いフィールド種目の比重が高いということもあります。したがって関西インカレのように一人ひとりがしっかりと役割を果たし、チームとして勢いに乗っていければ、勝てる可能性は十分にあります。

昨年は2人目、3人目が如何に点に絡めるかというレベルでしたが、今年は各種目2人は確実に入賞したいです。点を取るべき選手が自分の目標通りに点を取り、ランキングに入っていない選手の中で数人が得点に絡んでこれば優勝できます。

久々に男女アベック優勝を狙えるチャンスです。

今年はアウェイではありますが、開催地は京都なので、昨年並みの大人数での応援を楽しみにしております。

真夏の西京極、厳しい暑さにも負けず、また他大学にも負けず精一杯頑張ります。

応援よろしくお願い致します。

（大阪大学 陸上競技部 主将 山口正洋）

3. 女子主将挨拶

昨年は得点を獲得した選手が2人だけという寂しい結果に終わってしまい、大変悔しい思いをしましたが、この1年間は優勝を目標にチーム一丸となって懸命に練習に励んでき

ました。今年はその成果が現れたのか、名阪戦での勝利、また女子の 2 種目で満天下記録の樹立など、非常に良い流れの中で七帝戦を迎えることになります。対校選手の多くは今シーズンで自己ベストを更新しており、優勝候補の選手も多くいることから、女子の総合優勝という目標が現実になる日が遂にやってくるのではないかと考えております。しかし最後まで何が起こるか分からないのが七帝戦であり、京都のうだるような暑さも加わって、厳しい戦いになることは間違いないでしょう。最後まで 1 点にこだわってチーム全員で戦い抜き、男女アベック優勝を果たしたいと思いますので、応援よろしくお願い致します。

(大阪大学 陸上競技部 女子主将 馬越茉鈴)

4. 展望

短短パート (パート長：後藤佑介)

100m に和田(工・3)、藤原(基・2)、國田(工・2)が、200m に秋本(理・4)、藤原、高塚(工・2)が、110mH に後藤(工・3)、安田(理・3)、井上(外・2)が出場します。4×100mR に和田、藤原、高塚、秋本という顔ぶれで挑みます。

今年の短短は、例年になく戦力が充実しており、全ての競技で複数人の入賞、また 4×100mR では京大と 1 位を競り合うレースが期待できます。

特に複数種目に出場する藤原・高塚・秋本の 3 人をはじめ、得点源の 110mH で後藤・井上が確実に得点を取り、さらに得点圏内を狙える安田(110mH)・和田(100m)がどこまで活躍できるかが勝敗を大きく左右すると思われます。

ここ数年間で最もハイレベルな闘いの中、阪大が活躍できるよう何卒応援をよろしくお願い致します。

短長パート (短長パート長：秋本耕作)

400m 秋本(理・4)、尾野(文・3)、高塚(工・2)が出場します。3 人共に昨年より確実に実力アップをしており、全員が決勝に進むこと間違いありません。また、高塚と秋本は 48 秒台の自己ベストをもち、優勝を狙える位置にいます。400m は、3 人全員が上位を勝ち取り、他大学との差をつける種目となります。

400mH 宇畑(工・3)、北(法・3)、横山(理・2)が出場します。3 人の実力的には優勝を狙うには少しきびしいところがありますが、決勝にコマを進める力は十分あります。400mH では、少ないながら点数を確実に狙うレースとなると思いますので、応援のほどよろしくお願い致します。

4×400mR 秋本(理・4)、尾野(文・3)、高塚(工・2)、藤原(基・2)がエントリー。このメンバーは関西 IC にて、阪大歴代記録 2 位の記録を出したメンバーです。尾野以外の 3 人は 6 本目のレースとなり、体力面での心配は少しあります。しかし、他大学もその点において条件は同じと考え、強敵「京大」を必ず破り、七帝戦最後のレースは優勝でしめたいと思っております。

ミドルパート（パート長：松山 真也）

800m 29年ぶりに京大記録を更新した櫻井(京大・3)を筆頭に、レベル上昇が著しいこの種目。事前ランキングを見ても、得点ラインは過去最高水準であり、予選からハイレベルなレースが予想されます。阪大からは、3年連続同メンバーとなる、田中(工・4)、松山(経・4)、藤(工・3)が出場する。3者とも年々力をつけてきており、全員が決勝に進む力のある布陣です。しかし、総合優勝争いでライバルとなる京都大学にとって、この種目は大きな得点源の一つです。是が非でも複数入賞し京都大学に食らいついていきたいです。

ロングパート（パート長：大竹宏明）

1500m 大竹(工・4)、三根(基・3)、森田(基・4)が出場します。昨年同様ハイレベルなレースが予想されますが、ここで京大に差をつけられるわけにはいきません。大竹、三根は昨年を上回る順位で表彰台を目指します。森田は2本目のレースになりますが最終学年の意地で最後まで食らいついてくれると信じています。

5000m 大竹、水野(医・3)、吉田(経・2)が出場します。ランキングから考えると3人ともかなり厳しい戦いになることは間違いありません。しかし、他の大学も2本目の選手が多いと考えられるうえに、真夏の5000は何が起こるかわかりません。最後まで諦めなければ必ずチャンスはあると信じて、全力を尽くします。

3000SC 森田、吉田が出場します。2人とも春から着実に力をつけ、上位入賞が狙える位置にいます。そしてまだまだのびしろがあります。しっかりと京大勢に食らいついて、トラック最初の決勝種目で阪大に大きな勢いをもたらす走りを期待しています。惜しくも出場を逃した飯尾の分まで頑張りたいです。

競歩パート（パート長：山口正洋）

今年も七大戦は競歩は対校種目ではありません。しかし、来年からは対校戦となります。昨年までは阪大の独壇場でしたが、今年は昨年の世界ユースで優勝した山西君が京大に入ったのをはじめ、各大学に強い1回生がいます。阪大も来年以降、しっかりと戦えるところをお見せしたいと思います。

跳躍パート(パート長：宮崎雄大)

走高跳 吉武(工・4)、田谷野(工・3)、生野(理・1)が出場します。吉武は長い間けがに苦しんでいましたが今シーズンはベストに近い記録を安定して出すことができおり、この調子で入賞できるでしょう。田谷野は前回大会でも入賞していますが、今年は自己ベストタイの1m95もつい先日跳んでおり調子がかかなりよく優勝争いに絡んでくると考えています。生野は陸上未経験者ということでしたが、すでに1m80を跳んでいます。入賞がかかっており、本番での跳躍も非常に楽しみです。

棒高跳 増谷(基工・4)、宮崎(工・4)、五十嵐(工・2)が出場します。増谷は昨年

はケガにより出場機会を逃していましたが、今年は関西インカレで待望の自己ベストも更新し上位争いを繰り広げることになるでしょう。宮崎は昨年惜しくも得点することができませんでしたが、春先にベストを更新しており今年こそは落ち着いた跳躍をすれば十分得点圏です。五十嵐は安定してベスト付近を跳んでおり、入賞は間違いありません。

走幅跳 渡辺（工・3）、藤林（工・3）、小口（基工・2）が出場します。渡辺は今シーズン各大会で十分な結果を残しており、記録を伸ばしての優勝が期待されます。本人も納得できる大ジャンプで阪大を勢いづけてくれると考えています。藤林はコツコツ積み重ねた努力を今こそ咲かせるときでしょう。小口は昨年に続いて入賞するのに十分な力を持っています。早くケガから復活して自分の力をしっかりと発揮してくれることを期待します。

三段跳 島田（医・6）、中野（外・5）、渡辺（工・3）が出場します。島田は得点をした昨年に続き 14m の跳躍をして得点を目指します。中野は留学から戻り、かなり力は戻っています。一昨年の優勝者でもあり、渡辺との優勝争いが期待されます。渡辺は今シーズン、ベストも更新して 15m ジャンパーとなっていて優勝する力は十分です。昨年は最後に逆転を許しましたが、今年こそはその雪辱を果たしてくれるでしょう。

投擲パート（パート長：中澤 密）

砲丸投 中澤（基・4）、古場（工・3）、北（法・3）が出場します。例年通り 10m 中盤あたりに集中しており、決勝ラインも 10m 強となることが予想されます。中澤はベストの記録程度投げれば点数獲得は堅いでしょう。古場は試合には出ていないものの、学校での練習では点数に絡める程度の距離を投げていますので当日も点数を期待できます。北は、最近調子はよくありませんが、決勝に残る実力はあります。当日の爆発的な力に期待です。

やり投 中澤、神田（工・3）、山中（基・2）が出場します。阪大陸上部の投擲種目で最も盛んな種目であるやり投ですが、全体のレベルとしては例年通りです。中澤は昨年、大会記録を投げましたが、今年は調子も段々上がっているので、70m 越えて大会新記録の優勝に違いありません。神田は今シーズン記録が安定しているので、そろそろ一発はまる予感がします。68m という大台を越えて、日本インカレに出場してくれるでしょう。山中は今シーズンベストを出しており、もっともっと記録が出そうです。試合に緊張する癖があるので、実力を発揮すれば 60m を越えるに違いありません。阪大勢でスコンの可能性も大いにあります。

円盤投 中澤、北、古場が出場します。全体的なレベルとしては、昨年より少しレベルが低い感じがします。中澤は 2 位と 10m 程度の差をつけているため、いつも通りの投擲をすれば優勝は堅いです。北は、練習でも調子が伸びてきており、記録も決勝に残れるくらいの記録です。本番の更なるベスト更新で点数獲得に期待です。古場は試合に出たことがないですが、練習で北と同じくらいの記録を出しています。瞬発力がすごいので、一発はまりそうな気がします。点数獲得の可能性も大いにあります。

ハンマー投 崎（外・4）、布川（工・4）、中澤が出場します。全体的なレベルは例年通りです。

崎は今シーズン安定しており、当日もいつもの投擲をすれば優勝に間違いないでしょう。布川は今シーズンに大台である 40m 越えをマークしており、どんどん調子をあげています。記録のブレが少しあるので、ブレを減らせば、表彰台に乗ってくれます。中澤はハンマー投初試合です。練習では、決勝に残るくらいの記録を投げているので、当日ミスをしなれば、点数獲得の可能性もあります。

女子の部（女子主将 馬越茉鈴）

100m 脇本(文・3)と山下(外・2)が出場します。脇本は今シーズンに自己ベストの 12"80 を出しており、仕上がりは順調です。また山下も自己記録で 12 秒台を持っており、レースで徐々に手ごたえを感じています。今年は各大学で 12 秒台の選手が揃い、例年にないハイレベルなレースが予想されますが、2 人で決勝進出し、そこで自己ベストを出して入賞を狙っていきます。

400m 脇本(文・3)と森田(外・2)が出場します。400m の対校戦に初出場となる森田は、関カレのマイルでアンカーとして勢いのある走りを魅せてくれました。阪大に良い流れをもたらすべく、最大のパフォーマンスをし決勝進出を狙います。また、脇本は関カレで大学ベストの 59 秒台をマークし、名阪戦で優勝するなど、練習の成果があらわれ始めています。今年は自身の力を存分に発揮し初優勝を目指します。

800m 後井(外・3)と寺田(法・2)が出場します。後井は今年の西カレで満天下記録を更新するなど昨年よりさらにレベルアップし、有力な優勝候補となっています。必ずや 4 点をとってきてくれることでしょう。また寺田は 7 月の試合で 5 秒もベストを更新し、最も勢いのある選手の 1 人といえます。本番でもそのダイナミックな走りで敵を圧倒し、表彰台を狙います。

3000m 森瀬(法・3)と諸吉(文・2)が出場します。コツコツと努力を重ね、成長を続けている 2 人ですが、先日の記録会でもさらにベストを更新し得点の可能性が大きくなりました。安定感のある森瀬は他の選手に食らいついて、10 分 30 秒の自己ベストを狙います。また 10 分 28 秒の記録を持つ諸吉は炎天下の中でも攻めの走りで上位入賞を目指していきます。

4×100mR 1 走から藤原(外・1)、脇本(文・3)、山下(外・2)、馬越(工・4)のオーダーで出場します。今シーズン 50 秒台を安定して出しているチームをさらに強化すべく、1 走に藤原を投入し新チームを組みました。他の 3 人は多種目出場となりますが、最終種目となるこのリレーでバトンをしっかりと繋ぎ、49 秒台を出して表彰台の 1 番高いところに乗りたいと思います。

走高跳 馬越(工・4)と東村(人・3)が出場します。2回目の挑戦となる東村は、七帝戦で最初の種目である走高跳で阪大の総合優勝に勢いをつけるべく、自己ベストを目指して自分らしい跳躍をしてほしいところです。また馬越は今シーズン 1m40 を 2 度マークしており、他校との差は少しあるものの、試技数によっては入賞の可能性があります。大きなジャンプで得点獲得という目標を果たしたいです。

走幅跳 馬越(工・4)と今川(外・1)が出場します。今シーズン、2 人ともすでに 5m 台を出しており得点圏内に位置しています。試合は大接戦が予想されますが、昨年 2 位だった馬越は自己ベストを更新しての優勝を目指します。さらに着々とレベルをあげてきている今川にも優勝の可能性が大いにあります。2 人で表彰台に乗って大量得点を狙っていきます。

砲丸投 馬越(工・4)と森田(外・2)が出場します。森田は円盤投の選手でありながら地道な努力を積み重ね、成長が著しい選手であります。試合当日は大幅なベスト更新が期待できます。また馬越は昨年、思うような結果を残せず悔しい思いをしたため、今年は今まで以上に投擲練習に取り組み、ベストを更新し続けてきました。本番では力を爆発させ、2 人でベスト 8 に残り上位入賞を目指します。

5. 終わりに

今回は七大学戦の結果をお伝えします。また、阪大陸上部公式ホームページも随時更新しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。OB 掲示板も開設しております。情報交換の場としてお役立ていただければ幸いです。

公式ホームページ <http://www.osaka-u-athlete-club.com/>

OB 掲示板 <http://jbbs.livedoor.jp/school/25842/>

掲載内容についてのご意見、また配信停止の御希望等がございましたら、満天 Letter 編集係(manten.letter2010@gmail.com)までご連絡ください。

満天 LETTER 2014 年 vol. 7 七大学戦展望号

発行大阪大学陸上競技部(大阪府豊中市待兼山 1-1)

発行日 2014 年 7 月 31 日

編集責任者 土岐慧子, 東村果穂